

令和2年度 さいたま市立城北中学校 学校関係者評価書

さいたま市立城北中学校

学校関係者評価委員長

並木 淳子 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 7名 (学校評議員7名)
- (2) 実施回数 1回

2 学校関係者評価 (学校関係者評価委員の意見等)

<適切な支援に関して>

- ・「家庭学習をよくやっているか」のアンケート項目に肯定的に回答した生徒の割合は62%にとどまった。この結果は昨年度も同様で、本校の大きな課題の一つといえる。しかし、生徒の中には、予習・復習に長時間かけて取り組んでいる者も一定の割合で存在している。
- ・学校側が、家庭学習の課題をたくさん出してくれることを感謝している保護者も少なくない。出された課題を生徒達が毎日こなそうと努力することに繋がっている。
- ・出題範囲のある定期テストは、入念な準備によって一定の点数をとれる生徒も、学力テストには十分に対応できない。学習内容をしっかり定着させるための家庭学習にはどんな方法があるのか知りたい。
- ・先生達が熱心に指導してくれて保護者は感謝している。
- ・学習習慣がついていない生徒には、具体的な学習方法を示すことが必要である。家庭学習ノートなどを課題に位置付け、我慢してでも学習する習慣をつけてやるのが大切ではないか。
- ・「楽しく学校生活を送っているか」に肯定的に回答した生徒の割合は90%を超えている。生徒の作品等の掲示物は生徒の頑張りを励ますものであり、城北中学校にはいたる所に作品が掲示されていて、アンケートの高い数値を裏付けている。
- ・基礎学力テストの成績の掲示から、小学校での重点指導の成果が出ていると推測できる。

<生活規律に関して>

- ・「生活のきまり」の変更の中に、女子のスラックスの導入などがあり、ジェンダー教育や人権教育に結びついているとわかった。
- ・どのクラスも生徒が落ち着いて授業に集中している。

<きれいな学校に関して>

- ・掲示物が整っている。
- ・清掃が行き届き、教室の中にゴミが落ちていないし、床も磨かれている。廊下もきれいである。

学校関係者評価を受けた学校の対応

「適切な支援」については、GIGA スクール構想の実現に向け、一人一台のタブレット端末が整備されるこの機会に、生徒や家庭への家庭学習や個別学習の進め方の指導や、教員による家庭学習の見取りについて、方策の組織的な検討に着手する。「生活規律」については、生徒指導・教育相談の研究によって得られた知見を次年度以降に生かし、生徒一人ひとりの自律と自立を目指した健全育成を図っていく。その中で、校則やきまりについては、生徒・保護者・地域・教職員の意見を取り入れ、より合理的なものへと見直しを図っていく。また、不登校生徒への対応やさわやか相談室のあり方について、教職員の共通理解を深め、教員、さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保護者が緊密に連携し、組織一丸となって生徒一人ひとりの理解に努め、居場所の確保と学習保障を実現する。「きれいな学校」については、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じたうえで清掃活動を徹底し、さらに、花と緑を増やす活動を計画・推進していく。